

# 5月臨時会

令和2年第2回臨時会(5月18日)では、3つの常任委員会委員及び議会運営委員会委員の選任が行われました。

現在の、議会の役職と委員名は、下表のとおりとなっています。



- ・常任委員の選任
- ・議会運営委員の選任



佐藤 良憲 議長



山本 恭子 副議長



高塚 伴子 監査委員

委員会	委員長	副委員長	委員
常任委員会	総務政策	篠原 光宏 土井 秀勝	鈴木久美子・大津留 求・高橋 有子・里見 孝枝・加藤 光博 上原 秀樹・新内竜一郎
	文教福祉	保田 憲司 川井田清香	花田康次郎・岸田真佐人・永松 敏彦・山本 恭子・齋藤 真治 杉 一・高塚 伴子・久村真知子
	都市企業	戸田 龍起 山蘭 有理	佐竹 璃保・安藤なの香・小西 彦治・佐藤 良憲・竹村 和人 北原 速男・吉井 健二
議会運営委員会	新内竜一郎	篠原 光宏	佐竹 璃保・大津留 求・川井田清香・竹村 和人・保田 憲司 戸田 龍起・上原 秀樹
特別委員会	飛行場問題対策	竹村 和人 大津留 求	花田康次郎・小西 彦治・永松 敏彦・山蘭 有理・戸田 龍起 高塚 伴子・上原 秀樹・吉井 健二
	議会改革	北原 速男 齋藤 真治	土井 秀勝・佐竹 璃保・高橋 有子・岸田真佐人・川井田清香 篠原 光宏・久村真知子
	総合計画検討	杉 一 鈴木久美子	安藤なの香・里見 孝枝・保田 憲司・加藤 光博・新内竜一郎
	市立伊丹病院検討	小西 彦治 上原 秀樹	花田康次郎・大津留 求・永松 敏彦・竹村 和人・山蘭 有理 戸田 龍起・高塚 伴子・吉井 健二

豊中市伊丹市クリーンランド議会議員 ◎大津留 求・○鈴木久美子・佐竹 璃保・安藤なの香・永松 敏彦・吉井 健二

※備考 組合議会：◎副議長 ○監査

# 6月定例会

令和2年第3回定例会(6月8日～29日)では、24人の議員から市政全般にわたり、様々な質問がありました。その一部を紹介します。

なお、詳細については、ホームページをご覧ください。

市議会ホームページから3つの方法でご覧いただけます。

- ①会議録検索システム(9月上旬に掲載予定)
- ②本会議中継・録画配信
- ③代表質問・個人質問・一般質問・質疑の要旨

伊丹市議会 検索



# 一般質問

## 新型コロナウイルス感染症により影響を受けた地域活動

齊藤 真治 議員



**問** ウィズコロナ、アフターコロナの地域活動のあり方について見解を伺う。

**答** 現在、地域活動を行う共同利用施設等については、ソーシャルディスタンスを保つほか、遵守事項を設け利用いただいている。第2波への対策として新しい生活様式の対応が求められる中、今後の地域活動のあり方を考えていかなければならない。人と人のつながりが希薄となってきている現在、地域における活動は非常に重要である。その原点であるつながりを絶やさないよう、これまでの活動を基本としながら今後の地域活動のあり方を、地域と市が共に熟議し、模索していかねばならないと考える。

## PCR検査体制の強化

上原 秀樹 議員



**問** 保健所を通さず、医師の判断でPCR検査が受けられるよう、関係機関と連携して検査センターと検体を採取できる機関の増設について見解を伺う。

**答** 現在、県では1日当たり約400件のPCR検査が可能である。しかし、再度感染拡大した場合にすみやかに診察や検査が受けられる体制を整えるため、帰国者・接触者外来の追加整備や臨時外来の設置に加え、PCR検査件数を1日当たり1,500件まで引き上げる方針を固めた。検査機器や人員の確保についても県内医師会と連携し、地域外来・検査センターの設置に向けた準備を進めており、本市も市医師会と協議を進めていく。

## 統合再編による新病院の整備

加藤 光博 議員



**問** ①新たな感染症に対して新病院はどのような役割を果たすのか。②統合再編の進捗状況は。③近畿中央病院の跡地活用の協議状況は。

**答** ①感染症対応は、国、県が対処方針を定めてあたるため、連携を図り対策レベルに応じた地域の基幹病院として必要とされる役割を果たしていく。②設計業者選定の最終段階にある。また、両病院の職員で構成するワーキンググループと、設置者や代表者ほかで構成する統合委員会で具体的な事項を検討しており、今年度末に基本設計完成の予定である。③回復期等の専門機能を有する民間の医療機関の用地として調整を進めるが、現在は未定である。

## 自然災害と感染症との複合災害に備えて～避難所の確保～

竹村 和人 議員



**問** 避難所での住民間の距離を保つため、収容人数を考慮した避難所確保に向けた取り組みについて伺う。

**答** 県ガイドラインには、標準的な目安として世帯ごとのソーシャルディスタンスの確保と、居住面積を1人当たり3㎡以上、3人世帯で20㎡が必要との例示がされている。本市では従来、必要面積を1人当たり3㎡、3人世帯で9㎡としており、2倍以上の面積が必要となる。また、ソーシャルディスタンスが確保できない場合は、必要面積を確保したうえで、飛沫感染防止のため世帯ごとに避難者用間仕切り等の設置が示されており、これらの基準をもとに具体的な対策を進めていく。

## 新型コロナウイルス感染症対策～子ども用マスクの備蓄と着用リスク～

花田 康次郎 議員



**問** ①災害時の避難所での感染拡大防止のため、子ども用マスクの備蓄が必要と考えるが見解は。②2歳未満児のマスク着用リスクの見解と保育所での対応は。

**答** ①伊丹市新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、行政機能維持のため職員のマスク備蓄を行ってきたが、今後、子ども用マスクも伊丹市地域防災計画に基づく位置づけを図る。②2歳未満児のマスク着用は、日本小児科医会がリスクを指摘しており、本市でも着用は控えることを各施設に周知した。また、保育所等では、保育者はマスクやフェイスシールドの着用、玩具等の消毒や換気の徹底、3密を回避した環境の整備を行い保育にあたっている。

## 困窮している大学生等への支援

小西 彦治 議員



**問** 新型コロナウイルスの影響でアルバイトを失うなど、生活に困窮している学生への支援について伺う。

**答** 伊丹市くらし・相談サポートセンターが相談窓口となり、相談支援員が相談者に寄り添い状況の改善に取り組んでいる。各種制度の利用相談のほか、ハローワークとの連携や就労支援事業、家計改善支援事業など、生活困窮者自立相談支援事業の利用も有効である。また、子ども食堂に学習ボランティアとして参加し、子どもと学習や交流などをしながら食事を取ることも支援になると考える。生活に困窮した学生が学業を継続することができるようセーフティネットとしての役割を果たしていく。